

日照の検討と日射量の算出（レポートの課題）

1. 課題

(1) 日本国内の都市の中から自分の好きな都市を1ヶ所、また日本以外の世界中の都市の中から自分の好きな都市を1ヶ所選び、それぞれの都市における春分の日、夏至の日ならびに冬至の日の太陽高度と太陽方位角を、おおよそ6時から18時までの間の1時間おきに、計算して、水平面日影図を描け。

なおレポートには、選んだ都市の緯度と、選んだ理由を明記すること。ただし、レポート提出者の中で、同じ都市を選んだ者がいれば、選んだ者全員の評価は極めて低いものとするので、選択の際には、十分注意すること。

(2) (1) で選んだそれぞれの都市における春分の日、夏至の日ならびに冬至の日の太陽高度と太陽方位角を用いて、それぞれの日の水平面全天日射量、南面、東面ならびに西面の壁がそれぞれ受ける日射量の一日の変化（おおよそ6時から18時までの間の1時間おき）をグラフに描け。ただし、大気透過率は、夏至では0.6、春分の日では0.65、冬至では0.75、とする。

(3) 例題で扱った熊本、自分の選んだ2ヶ所の都市の

- ・水平面日影図

- ・水平面全天日射量、南面、東面ならびに西面の壁がそれぞれ受ける日射量の1日の変化の図

をそれぞれ比較して考察し、考えられることを述べよ。

(4) 講義・演習を受けての感想、意見、批評などを書いてください。

注1) レポート中のグラフや図は、見やすいように各自で工夫すること。レポートの体裁は、A4判であれば、枚数には特に制限を設けないが、他人が見ても（読んでも）わかりやすいレポートを作成するよう心がけること。なお、最低限、学籍番号と名前は明記すること。また、レポートが2枚以上になる場合は、ステープラーなどで綴じてから提出すること。

注2) できるかぎり配付資料 pp.9～10（5月28日配布）の参考文献などを参考にし、様々な観点から考察を進めることが望ましい。他の人とは違った自分独自の見方でレポートを書くことが強く望まれる。そのためには、新たなグラフや図表、写真などを追加してもかまわない。

2．締め切り

2004 年 6 月 11 日（金）（厳守のこと）

3．提出先

下記の担当者の所まで。必ず、手渡すこと。手渡さないで扉にはるなどした場合は、紛失しても責任はもてない。なお、質問なども下記の担当者まで。また、やむを得ない事情により、レポートの提出が遅れる場合は、理由によっては考慮することもあるので、できる限り早急に下記まで連絡を取ること。

助教授・辻原 万規彦

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4 階西南角

電話：096-383-2929（内線 492）

e-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

助手・岡本孝美

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4 階南側中央付近

電話：096-383-2929（内線 482）

e-mail：okamoto@pu-kumamoto.ac.jp